

主 題：結婚・離婚

聖書箇所：マルコの福音書 10章1—12節

イエスはガリラヤの地を去ってエルサレムへと向かわれます。ガリラヤでは主に弟子たちに教え、話されたのですが、このユダヤ地方とヨルダンの向こうでは、また群集がイエスのみもとに集まって来ました。イエスはいつものように彼らを教えてゆかれます。そこにパリサイ人がやって来て、イエスに質問するのです。離婚について。それは、イエスをためそうとしたのです。しかし、イエスは離婚は神に喜ばれることではないと言われます。

マラキ2:16には「『わたしは、離婚を憎む』とイスラエルの神、主は仰せられる。」とあります。

☆不当な離婚は罪です。その理由をイエスは教えておられます。

1. 神の教えに逆らうもの 3-5節

パリサイ人たちはモーセの教えを遵守していました。彼らは申命記のみことばを引用して、「モーセは、離婚状を書いて妻を離別することを許しました。」(4節)と言います。申命記24:1「人が妻をめとって、夫となったとき、妻に何か恥ずべき事を発見したため、気に入らなくなった場合は、夫は離婚状を書いてその女の手に渡し、彼女を家から去らせなければならない。妻に何か恥ずべき事をというのを、この当時の律法のシャンマイ派はこれを「淫行、不貞」とし、ヒレル派は「見苦しいものすべて」としています。それは料理が下手とか、みだしなみが良くないとか、大声で話すなどを指し、ユダヤ教の教師アキバという人はこれを、夫が妻を気に入らなくなった場合だとしています。このヒレル派の考えをこの当時の人々は教えられ信じていました。そして、ユダヤの周囲の国々の影響も受けています。ローマや特にギリシャでは男性は自分の伴侶以外に女性をもつことは悪いことではなかったとされていました。当時、このような時代背景がありましたが、これは今の日本も何ら変わりません。不道德です。このような中であって、イエスは人々に神は離婚に関して、どのように教えておられるのかを教えてゆかれるのです。

4節にあるとおり、夫はモーセの教えに従って離婚状書いて妻を離別していました。夫の身勝手さによって妻は離別させられていました。5節のイエスの答えを見ましょう。「あなたがたの心がたくななので、」と。快樂のままに妻を離別し、モーセの教えを聞こうとしない夫に対して、モーセは女性を守るために譲歩したのです、と言われるのです。離婚状を書くことを許したのは女性を守るためだと。パリサイ人たちはイエスの答えによって人々に混乱をもたらそうとしたのです。この二つの学派のいずれをとるか、また、モーセの教えを否定することも。彼らの目的はイエスを苦しめることでした。神の真理に心を開こうとしない彼らでした。

また、この群集が集まっている地はヨルダンの向こうとありますが、ここはペレヤといいヘロデ国主の支配している地でした。このヘロデは不当な離婚をし不当な再婚をしていました。そして、妻ヘロデヤのことで自分の罪を指摘したバプテスマのヨハネを殺していました。彼も神のことばに耳を貸そうとしない者のひとりでした。

イエスはあくまで離婚は神に喜ばれないことだと教えます

2. 神の計画に逆らうもの 6-9節

神はどのようなご計画で人を男と女に創造されたのでしょうか？

(1)夫婦はひとつのからだであるから。

創世記2:24「それゆえ、男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。」。夫婦はひとつのからだ、ひとりなのです。ゆえに、伴侶を最優先します。夫婦関係こそ家庭の主体です。神の前にどう生きるかは、みことばは明らかに教えています。夫婦間においてもまず自分自身が変わることです。そこに祝福があります。イエスはここで神の創造はふたりはひとつであると教えておられます(8節)。そして、

(2)結婚は神への誓いであるから。

神が結び合わされたものを引き離してはならないのだと言われるのです(9節)。

3. 神のみこころに逆らうもの 10-12節

離婚はきよさを汚してしまうと言います。レビ記 19：2 のみことばをペテロは 1 ペテロ 1：16 に引用しています。「…主であるわたしが聖であるから、あなたがたも聖なるものとならなければならない。」と。マタイ 19：1-9 にはこのマルコの並行記事がありますが、ここには妻が夫を離別すること（マルコ 10：12）は書かれていません。それは、当時のユダヤ人社会では妻が夫を離別することはほとんどなかったからです。マルコの福音書はローマ人など異邦人に宛てて書かれているという事情があります。イエスはいずれにしても離婚は間違っていると教えます。

以上、不当な離婚は罪であるとイエスが教えておられることを見てきました。そして、その不当な離婚をした人がもし再婚するなら、罪に罪を重ねてしまうのだといます。神が教えることは、結婚というのは一生に一度のことだということです。もし、絶望的と思われる家庭であっても、神は変えてくださいます。しばらく離れること、別居はひとつの方法です。

聖書が教える認められる離婚について見ましょう。但し、ある条件にかなった場合です。

☆認められる離婚

(1) 相手が不貞をおかした場合、マタイ 19：9 に「…だれでも、不貞のためでなくて、その妻を離別し、別の女を妻にする者は姦淫を犯すのです。」とあります。しかし、この場合でも神が望まれることは相手を許すことです。ホセア 1：1-3 には神がホセアに姦淫の女ゴメルをめとるようにと命じられています。

(2) 信仰をもたない伴侶が本人の信仰のゆえに離れて行く場合、そして離婚を求めた場合。

そして、再婚が認められるのは、上記(1)(2)の場合と相手が死亡した場合です。これ以外の再婚は罪だと言われます。なぜなら、それは姦淫であるからです。ローマ 7：2 「…夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。」

もし、不当な理由で離婚した場合はどうでしょう？

1 コリント 7：11 「一もし別れたのだったら、結婚せずにいるか、それとも夫と和解するか、どちらかにしなさい。」のとおり、再婚は認められません。

イエスさまはパリサイ人たちの心の中をご覧になって、彼らの心が真理に対してあまりにもかたくなであるから、そのことにイエスさまは心痛められました。

私たちは神に対して責任があります。神の教えに対してどのようにするのか、忠実に従うこと、それが責任です。